

新潟県立がんセンター新潟病院

地域連携だより

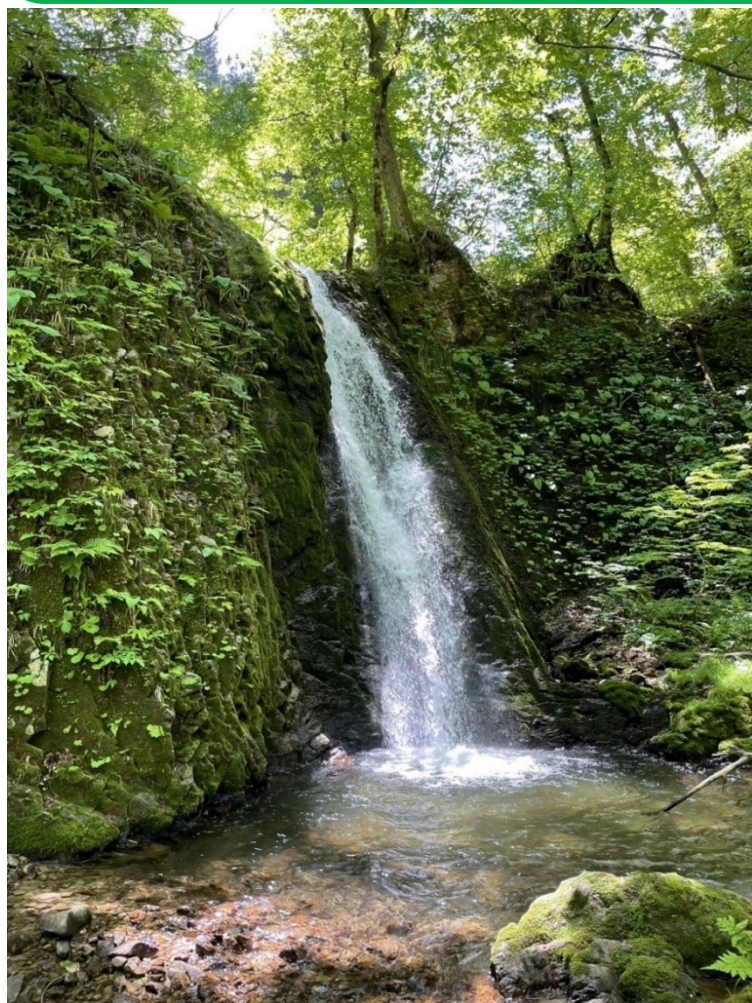
NEWSLETTER



2023 年夏号

お知らせ

令和5年4月より、当院は完全紹介予約制となりました。
初診の患者さんにつきましては、紹介状と病診連携室経由での事前予約が必要です。
どうぞよろしくお願いいたします。



—Contents—

- ◆新任医師・臨床研修医のご紹介
- ◆部門紹介～栄養課～
- ◆連載コラム～薬剤部～
- ◆市民公開講座のお知らせ
- ◆からだのとしょかん通信



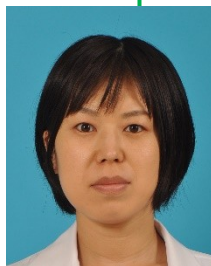
編集者の愛猫

新任医師のご紹介



消化器外科
福田 進太郎

4月からがんセンターに来ました消化器外科の福田進太郎と申します。専門は胃であり、胃外科で手術や外来業務を行っています。出身は広島ですが、新潟に来て約15年になります。長岡や上越の病院が長かったので、新潟市内は地名など分からないことだらけであり、いろいろ探検したいと思っています。よろしくお願いします。



消化器外科
田中 花菜

患者の皆様により良い医療を提供できるよう、診療に努めて参りたいと思います。よろしくお願い致します。



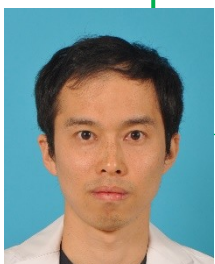
消化器外科
山井 大介

本年度より赴任いたしました山井と申します。当院での診療のお役に立てるよう精進いたします。



消化器外科
青木 真

優しく、フットワークの軽い診療を行いたいと思っております。ご指導よろしくお願いいたします。



消化器外科
三輪 矢真人

4月から半年間、がんセンターで勤務させていただきます。新潟市の医療に貢献できるように頑張ります。



泌尿器科
山崎 裕幸

8年ぶりにがんセンターに戻ってまいりました。皆様のお役に立てるよう精一杯頑張ります。



頭頸部外科
山崎 恵介

20年以上、頭頸部癌治療に従事してきました。今後も患者様に寄り添いながら精進していきたいと思っています。



頭頸部外科
高嶋 惇

皆様に貢献できるよう、精一杯やらさせていただきます。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



血液内科
関 義信

2023年6月から当院で勤務しております関と申します。私どもの血液内科領域も日進月歩です。日々最善の診断・治療を目指したいと思っております。変わらないのは病める方のところ、これを一番大事にしつつ微力ながら医療に貢献したいと思っております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。



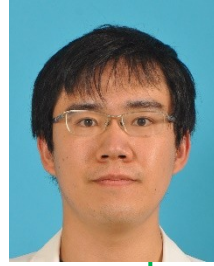
婦人科
櫛谷 直寿

患者さんと信頼関係を築いて、よりよい診療ができるように努めたいと思います。



呼吸器外科
田澤 勝幸

日々皆様のお役に立てるよう精一杯努めさせていただきます。よろしくお願ひします。



呼吸器内科
渡邊 広樹

呼吸器内科としてのキャリアはまだ浅く至らぬ点が多いかと存じますが、少しでもお役に立てますよう精進して参ります。



皮膚科
北山 祥平

患者さんと共に病気に向き合っ
て参ります。どうぞ宜しくお願ひ
いたします。



皮膚科
勝海 洸司

皮膚科に着任しました勝海と申
します。これまで得てきた知識と技
術を最大限に生かして診療に励ま
す。



乳腺外科
大路 麻巳子

新潟県のがん診療に少しでも貢
献できるように努力して参ります。
よろしくお願ひいたします。

乳腺外科
成瀬 香菜

分かりやすく丁寧な診察を心がけ
て、地域医療のために頑張ります。
よろしくお願ひいたします。

🌸 臨床研修医のご紹介 🌸



永尾 研人

がんセンターで研修させていただ
き、今後の展望について深く考
え進路を決めたいと思います。



藤盛 良

新潟の夏の日差しも 2 度目
です。暑さに負けず精進します。

本人の希望により

掲載終了いたしました。



臼井 義貴

研修医としての一般的な知識を
抑えつつ、がんについて深く学
びたいと考えています。何卒よろ
しくお願ひいたします。



部門紹介

栄養課

栄養課長 高橋 昌子

当院の栄養課は直営給食を行っており、患者さんに喜んでいただける安全で美味しい食事の提供を目指しています。治療をしていく中で食欲不振や口内炎、嚥下機能の低下、低栄養など食に関わる様々なトラブルを抱える患者さんも多くいらっしゃいます。そのような患者さんのために、当院の特徴的な食種として『化療食』『口腔食』『ソフト食』などを提供しています。しかし、実際は患者さんそれぞれの症状や嗜好は異なるため、管理栄養士がベッドサイドに訪問して一人ひとりに適した食事内容を提案・調整し、『個人対応食』として提供することも多いです。また、常食を喫食できる患者さんには、水～土曜日の昼食に選択メニューとして、そば、ラーメン、うどんなどの麺類や寿司、カレー、チャーハンなどを用意しています。患者サービスの一環として、入院中に誕生日を迎えた患者さんには、誕生日膳(図1)としてスイーツやフルーツ盛り合わせにメッセージカードを添えて提供しています。他にも七夕、クリスマス、お正月、ひな祭りなどに行事食の提供をしています。これらの取り組みにより、入院生活の中で食事が患者さんの楽しみになっていただけるよう心がけています。



図1 誕生日膳

栄養指導では、頭頸部癌、胃癌、肺癌を中心に医師の指示のもと体組成計 (InBody) (図2)での測定、握力測定を行い、簡易栄養状態評価表を用いた栄養状態の確認をすることで低栄養の予防と改善に取り組んでいます。様々な治療を行う上で、患者さんの栄養状態を悪化させないことはとても重要です。測定の結果が数字で表されることで、患者さんご自身が積極的に栄養療法に取り組むことにつながっているように感じています。また、患者さんの生活環境やライフスタイルは様々です。管理栄養士は患者さんの生活環境を聞き取り、思いを傾聴しながら、決して押し付けではなく患者さんやご家族が取り組みやすい栄養療法を提案するよう心がけています。

これからも栄養課では管理栄養士と調理師、また院内の多職種の方々との連携を密にして、患者さんに寄り添った食事の提供や栄養相談を行っていきたいと思います。



図2 体組成計(InBody)



体組成計で測定、
握力測定の様子です





新しい薬や治療法について、厚生労働省から承認を得るために実施する臨床試験を「治験」と言います。治験により承認を得ると、多くの患者さんへの使用が可能となります。当院では、呼吸器内科、消化器外科、皮膚科、血液内科、乳腺外科等で多くの治験を実施しています。今回は治験についてQ&Aの形で紹介します。

Q1：治験は誰でも参加できるの？

A1：試験ごとに詳細な選択・除外基準があり、その基準を全て満たす方のみ参加できます。

Q2：治験参加のメリットは？

A2：通常診療より詳細な診察や検査が行われ、病気や検査結果について詳しく説明を受けることができます。また、検査代や診療費が通常診療より少なくなる場合があります。

Q3：治験参加のデメリットは？

A3：体調の変化等を慎重に診察するため、来院や検査の回数が増えることがあります。また、薬の飲み方や生活の仕方など、守らなければいけないことがあります。まれに、未知の副作用が出る場合があります。

治験は「被験者個人の利益と福祉を科学や社会に対する寄与よりも優先すべきである」という原則に基づき実施され、参加については患者の「自由意志」が尊重されます。また、治験コーディネーターが治験の円滑な実施をサポートします。

薬剤部コラムの連載は、今号が最終回となります。ご愛読ありがとうございました。

次号より、別の部門による新連載を開始予定しております。



第26回 市民公開講座 開催のお知らせ

新型コロナウイルス感染症の影響で中断していた市民公開講座を、4年ぶりに対面形式で開催します。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

日時 令和5年9月9日(土) 午後1時30分～午後4時20分

会場 だいしほくえつホール(新潟市中央区東堀前通七番町1071番地1)

会場に駐車場はありません。提携駐車場「東堀パーク600」は1時間無料となります。

テーマ がんを予防する～がんにならないための生活習慣～

ミニ講演「胃がんの予防と早期発見」 會澤 雅樹 消化器外科部長

「本当はこわい紫外線～皮膚がんを予防するために～」 竹之内辰也 副院長

「がんリスクを上げないための食生活」長橋 拓 主任管理栄養士

「がん予防のための運動習慣」高橋 康夫 主任理学療法士

特別講演「知って得する(?)がん予防のはなし」新潟大学医学部保健学科教授 関 奈緒 先生

からだのとしょかん通信

がん情報の探し方

がんセンター新潟病院 図書室

外来棟2階にある患者図書室「からだのとしょかん」は開始から26年を迎えました。多くの患者さん、ご家族の方にご利用いただきありがとうございます。今号はがん情報の探し方や、からだのとしょかんのご利用についてご紹介します。



「がん」といっても、その種類や進行度によって状態はさまざまです。あなたに一番適した治療法や療養生活のことは、あなたと担当医が話し合って決めていく必要があります。担当医とよく話し、自分の状態を正確に把握することが大切です。

その上で、あなたの病気のこと、検査や治療法、療養生活などについて、もっと詳しいことを知りたいと思ったときは、自分でも調べてみましょう。情報を得ることで、知らなかったことに対する漠然とした不安が軽減することもあります。また、納得のいく決定をするにあたって、その情報が判断材料となることがあります。

以下に「がん情報を探すときの5つのポイント」を提示します。情報を探す際、内容を見極める際などにご活用ください。



- がん情報を探すときの5つのポイント -

●今、必要な情報は何か、考える

状況によって、必要となる情報はさまざまです。あなたにとって、いま必要な情報は何か、考えてみましょう。メモに書き出すことで、頭の中を整理し、人に伝えることのきっかけとなり、情報のありかを探すことにつながるかもしれません。

●インターネットを活用する

インターネットを活用すると、たくさんの情報を簡単に入手できます。自分で使うことが難しい場合は家族など周囲の人に調べてもらいましょう。

●がん相談支援センター(患者サポートセンター)を利用する

情報の探し方がわからないときには、がん相談支援センターを利用してみましょう。相談員と話すうちに、問題が整理できることもあります。



●信頼できる情報が、考える

情報の正しさと、その情報が自分に当てはまるかどうかを判断するときには、情報の信頼性が大切です。複数の情報を照らし合わせ、担当医に確認して判断しましょう。

健康食品やサプリメントなどの補完代替療法のうち、がんへの効果が証明されたものではありません。中には有害なものもありますので、注意しましょう。

●行動する前に、周囲の意見を聞く

得られた情報をもとに行動する前に、担当医や家族、また患者仲間などに意見を求めましょう。あなたの判断の助けになります。

出典：国立がん研究センターがん情報サービス

「からだのとしょかん通信」2か月に1回、偶数月に発行しています。外来（待合ホール）、薬局、からだのとしょかん前の3か所に置いています。ご自由にお持ち帰りください。